

## ASEAN 大使通信 第 26 回 日 ASEAN 共創の具体化

2025 年（令和 7 年）1 月 30 日



日マレーシア首脳会談後の共同記者発表  
(2025 年 1 月 10 日、於クアラルンプール、内閣広報室提供)

いよいよ新たな 1 年が始まりました！皆様は最初の 1 ヶ月をどのように過ごされましたか。日 ASEAN 関係では早速大きな進展があり、ASEAN 日本政府代表部は新年からフル稼働しています。

石破総理は、就任後初めての二国間訪問として、新年早々にマレーシアとインドネシアを訪問しました。翌週は ERIA 公共政策学院で、甘利元経済産業大臣を迎えて第 1 回ハイレベル・ラウンドテーブルが開催されました。今月は、ASEAN 外相リトリートがランカウイで開催された他、ASEAN 関連のデジタル大臣会合と観光大臣会合がバンコクとジョホールバルでそれぞれ開催され、日本から総務・国交副大臣が出席しました。下旬には日商・東商経済ミッションがタイとインドネシアに来訪し、私も ERIA 訪問や新年会でご一緒しました。

新年から取組を進めている重点課題は、「日 ASEAN 共創をあらゆる分野で具体化していくこと」です。今回の ASEAN 大使通信では、一連の行事とともに、日 ASEAN 共創の着実な進展についてご紹介したいと思います。



日インドネシア首脳会談前の記念撮影  
(2025年1月11日、於ボゴール、内閣広報室提供)

#### ●石破総理のマレーシア・インドネシア訪問

1月9日～11日、石破総理は就任後初めての二国間訪問として、[本年のASEAN議長国マレーシア及びASEAN最大の経済・人口を誇るインドネシアを訪問](#)しました。国際情勢が不透明さを増す中、インド太平洋地域の「要」に位置し、世界の成長センターである東南アジアとの連携・信頼関係強化は、今後の日本外交にとり極めて重要との考えからです。ASEAN代表部も、在インドネシア大使館と一体となって、今回の訪問の準備と対応に当たりました。

石破総理は、ジャカルタでの[最後の記者会見](#)で、(1)マレーシアとインドネシアに訪問したのは34年振りで、それ以来の両国の著しい発展振りに驚愕し、感動を覚えたこと、(2)そして両国とも日本に対する期待が非常に高く、日本も両国を大切にしていくなすべきと痛感したことを、感想として披露していました。総理自身が就任直後にこのような認識を持って、今後のASEAN外交に臨むことを大変心強く思いました。

今回の訪問では、いずれの国でも、安全保障、経済から地域・国際情勢まで様々な成果が得られたのみならず、少人数会合・拡大会合・総理夫人も交えての午餐会を通じて首脳レベルの個人的関係を構築することができました。



ERIA 産業貿易政策ラウンドテーブル  
(2025年1月15日、於 E-DISC)

### ●ERIA 産業貿易政策ラウンドテーブル

1月20日のトランプ米国新政権発足には世界中が注目しました。ASEANも例外ではありません。それに先だって、1月15日、[ERIA 公共政策学院 \(School of Government\)](#) で、米国新政権への東南アジアの貿易産業政策と経済安全保障をテーマに、[第1回ハイレベル・ラウンドテーブル](#)を開催しました。

今回の会合では、日本で経済安全保障政策やイノベーション政策に長年取り組んできた甘利明元経産大臣をはじめ、ASEAN 各国や対話国の元閣僚、政治家、ASEAN 常駐代表など政府関係者が多数参加しました。そして、各国の貿易産業政策のあり方や、基幹産業のサプライチェーン構築といった課題について、チャタムハウス・ルール（参加者は受け取った情報を自由に使用できるが、発言者や他の参加者の身元や所属を明らかにしない）に基づいて率直な意見交換を行いました。

私自身、このラウンドテーブルに終日参加して、ASEANをはじめインド太平洋地域が直面する政策課題や対応策のあり方について理解を深めることができました。ERIA 公共政策学院は、ASEAN を「ガバナンスの中心地 (Epicentrum of Governance)」として政策発信を行い、「国益 (National Interest)」を超えた「地域益 (Regional Interest)」を構想・共有することを目指しています。私もこの取組を応援していきたいと思えます。



日 ASEAN デジタル大臣会合  
(2025 年 1 月 17 日、於バンコク、[ASEAN 事務局提供](#))

## ●日 ASEAN デジタル大臣会合と ASEAN+3 観光大臣会合

本年の ASEAN 議長国のマレーシアは、ASEAN 議長国の[ウェブサイト](#)を立ち上げ、[パンフレット](#)を発行しました。1 月 18 日にはランカウイで ASEAN 外相リトリートが開催され、議長国としての方向性が[議長プレス声明](#)で示されました。また、アンワル首相は 12 月の[寄稿](#)や 1 月の [LSE での講演](#)、世界経済フォーラムの発言（[1](#)・[2](#)・[3](#)）で議長国としての方針を表明しています。

閣僚級の会合も始まりました。1 月 16 日～17 日には ASEAN 関連デジタル大臣会合がバンコクで開催され、17 日の[日 AESAN デジタル大臣会合](#)は阿達雅志総務副大臣が出席し、[日 ASEAN デジタルワークプラン 2025](#)を採択しました。

1 月 19 日には ASEAN 関連観光大臣会合がジョホールバルで開催されました。同日の [ASEAN+3 観光大臣会合](#)には高橋克法国土交通副大臣が出席し、我が国における ASEAN 各国への観光分野の協力に関する取組の発信、「観光レジリエンスサミット」の開催（2024 年 11 月）の報告や今後の活動の連携・協力の呼びかけ等を行い、[共同声明](#)も採択されました。



在ジャカルタ国際機関邦人職員との意見交換  
(2025年1月17日、於ASEAN代表部大使公邸)

### ●在ジャカルタ国際機関邦人職員との意見交換

日本が ASEAN との協力の中で提供できる大きな強みは、国連をはじめとする国際機関との連携です。国際機関は担当する分野でのグローバルな専門性とネットワークを持っており、日本は主要先進国としてそれぞれの国際機関の運営に携わり、協力を推進しています。これを ASEAN にも活用すれば、大きな付加価値を生み出すことができます。これまでも、UNDP や UN Women をはじめ、積極的に日 ASEAN 協力との連携を進めてきました。

1月17日、[在ジャカルタ国際機関邦人職員との意見交換](#)を ASEAN 代表部大使公邸で開催しました。ADB、ICRC、IFAD、ILO、IOM、UNDP、UNESCO、UNICEF、WHO の在ジャカルタ事務所から十数名の邦人職員が参加し、ASEAN 代表部と在インドネシア大使館のカウンターパートとともに、大変有意義な顔合わせと意見交換を行いました。そのほか、UNIDO や WFP にも邦人職員が在籍しています。

ASEAN の域内協力も日 ASEAN 協力も深化する中で、国際機関との連携の可能性はますます広がっています。今回の意見交換を、今後のさらなる案件形成に生かしていきたいと思えます。



日商・東商経済ミッションの ERIA 訪問  
(2025 年 1 月 24 日、於 E-DISC)

## ●日商・東商経済ミッションのタイ・インドネシア訪問

1 月下旬に日本商工会議所・東京商工会議所の経済ミッションがタイとインドネシアを訪問しました。40 名以上からなる大規模なミッションです。1 月 23 日には ERIA を訪問して意見交換を行い、私も同席しました。24 日には[ジャカルタジャパンクラブ \(JJC\)](#) 法人部会の新年会とあわせて交流会が市内ホテルで開催されました。

[ERIA との会合](#)では、渡辺哲也事務総長をはじめ ERIA 幹部から、デジタル (E-DISC)・脱炭素 (アジア・ゼロエミッションセンター)・サプライチェーン強化・ヘルスケア・ASEAN 議長国支援など主要分野での活動が紹介され、引き続き ASEAN ビジネスの課題や可能性について質疑応答がありました。ASEAN における幅広い分野の課題を ERIA が把握し、政策提言や議長国支援を行っていることは、ASEAN のみならず日本をはじめとする民間部門にとっても大いに有用ではないかと感じました。

[JJC との新年会 & 交流会](#)には総勢 700 名が参加し、当地における日本企業の存在感を感じさせるものでした。冒頭に菊地原伸一 JJC 会長、正木靖駐インドネシア大使と私が挨拶し、小林健日商・東商会頭が乾杯の音頭を取りました。小林会頭からは、日本の中小企業の力を東南アジアでも生かすべく、協力の要請がありました。日 ASEAN 協力を通じて応援していきたいと思えます。



JJC 法人部会新年会 & 日商・東商経済ミッションとの交流会  
(2025年1月24日、於ジャカルタ市内ホテル)

### ●日 ASEAN 共創の具体化

新年に際して、ASEAN 代表部ウェブサイトの大使挨拶を[アップデート](#)しました。「2025 年が、『継続と変革』を通じて日本と ASEAN の『信頼と共創』のビジョンをさらに推進する年となるよう、幅広い関係者の皆様と一緒に具体的な取組を進めていきたいと考えています。」との決意表明で締めくくりました。

今年の議長国マレーシアが掲げるテーマは、「包摂性と持続可能性」です。これは、日本が[「自由で開かれたインド太平洋 \(FOIP\) のための新プラン」](#)で掲げた多様性・包摂性・開放性の尊重（誰も排除しない、陣営作りをしない、価値観を押し付けない、地政学的な競争に陥ることなく、法の支配の下で、多様な国家が共存共栄していく）、そしてインド太平洋流の現実的かつ実践的な形での課題対処（各国社会の強靱性・持続可能性を高め、自律的な各国間でのイコールパートナーシップを実現する）と軌を一にするものです。

[信頼のパートナー](#)である日本と ASEAN が、[あらゆる分野](#)でお互いの強みを生かして共創を具体化し、さらに皆の力を引き出して方向性を合わせることで、大きな流れをつくっていききたいと思えます。本年もよろしくお願いいたします。

ASEAN 代表部大使  
紀谷昌彦